

藩政（江戸）時代の糠塚村の絵図①

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

新岡垣風土記の執筆者の1人である石田健次氏が「第383号〜385号」で、藩政期の山田村絵図のことを執筆された。その中で、糠塚村にも絵図が残っていることを紹介された。今回、糠塚に在住している筆者が、糠塚村絵図のことを紹介することにした。

筆者が糠塚村絵図を見たのは、「岡垣町史」が編纂されているころ、区長筆筈（藩政時代からの資料が保管）の中に入っていた。その絵図に、「文政九（1826）年十一月吉日 風占孝之」などのメモが添えられている。絵図ができた年と絵師の名前ではないかと思う。それに、当時の村の様子を詳しく彩色で描写されている。そのすばらしさに驚いた。絵図は和紙に描かれ、大きさは縦80センチメートル、横168センチメートルである。その後、山田村の絵図を見たとき、同じ絵師が描いたも

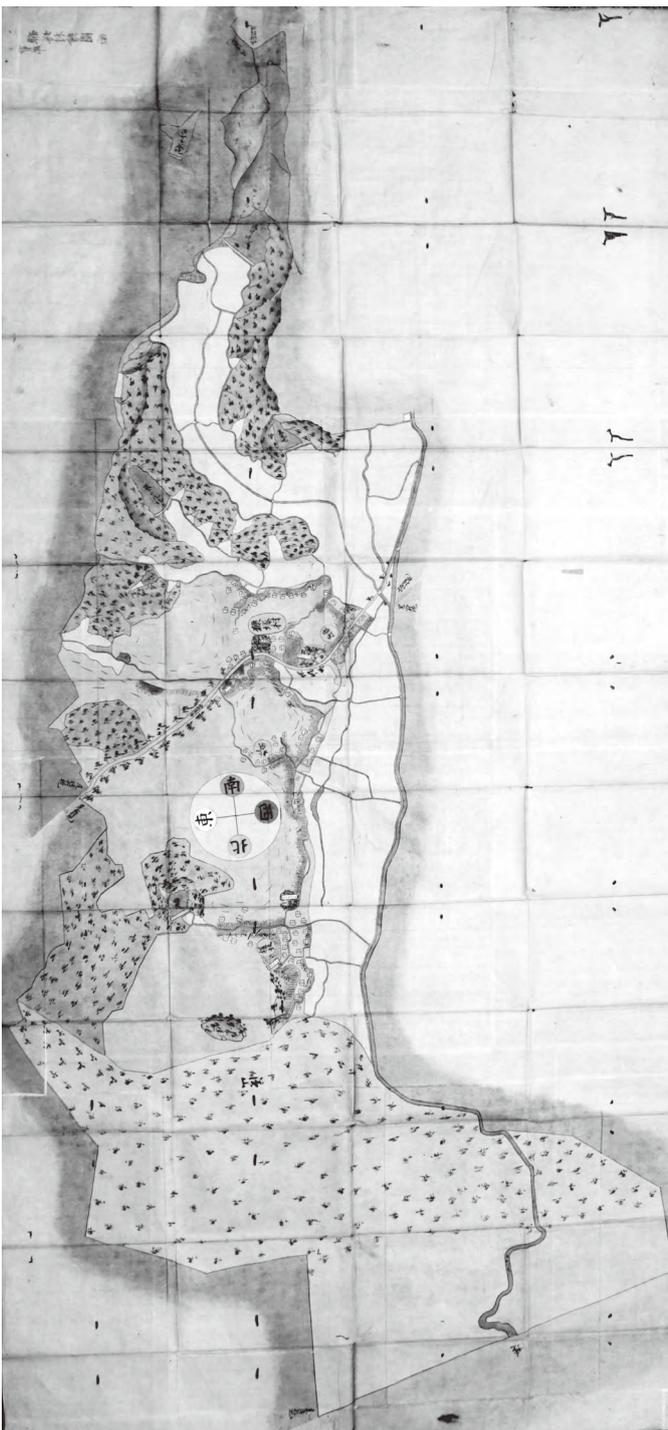
のであろうと思った。

伊能忠敬による「日本輿地全図」ができたのが、文政四（1821）年である。ほぼ同時代に、岡垣でもすばらしい村絵図が作成されて

いた。

糠塚周辺の村々の小字図が、「岡垣町史」に紹介されている。それと村絵図の両方を見ると、糠塚の区域が分かりやすい。糠塚の南側

は現国道3号付近で、北側は浜山を経て、矢矧川の河口付近までである。次回からは、村絵図の中心部の様子を紹介する。



▲糠塚村の絵図